

平成 30 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和元年度調査）
医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進に係る評価等に関する実施状況調査

- 特に指定がある場合を除いて、令和元年 6 月末現在の状況についてお答えください。
●ご回答の際は、該当する番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値等をご記入ください。
（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「○（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。

1. 貴施設の概要等についてお伺いします。

① 貴施設の薬剤師数（薬剤部以外に所属する薬剤師も含めた全体の人数）を常勤、非常勤別にご記入ください。

	常 勤	非常勤	
		実人数	常勤換算人数 ^{注1}
薬剤師	() 人	() 人	() 人

注1. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第 1 位までお答えください。

- 1 週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の 1 週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間）
■ 1 か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の 1 か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4）

② 貴施設薬剤部門に所属する薬剤師数及びその他の職員を常勤、非常勤別にご記入ください。

		常 勤	非常勤	
			実人数	常勤換算人数
1) 薬剤師		() 人	() 人	() 人
2) その他の職員	① 事務補助者	() 人	() 人	() 人
	② その他	() 人	() 人	() 人

③ 貴施設における、平成 30 年 6 月及び令和元年 6 月 1 か月間における常勤薬剤師 1 人あたりの平均勤務時間、平均当直回数、平均オンコール担当回数等についてご記入ください。

		平成 30 年 6 月	令和元年 6 月
1) 1 人あたりの平均勤務時間 ^{注2}		約 () 時間 () 分	約 () 時間 () 分
2) 夜間勤務体制 ※○は 1 つだけ	01. 日勤のみ	02. 当直 ^{注3}	03. オンコール ^{注4}
	04. 2 交代制 ^{注5}	05. 3 交代制 ^{注6}	06. シフト勤務 ^{注7} （早出、遅出等） 07. その他（具体的に

注2. 所定労働時間に残業時間を加えた時間

注3. 薬剤師が夜間勤務している体制をとっていること

注4. 自宅待機等で必要時に呼び出しを受けて対応できる体制をとっていること

注5. 日勤・夜勤が 12 時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務

注6. 日勤・準夜勤・深夜勤が 8 時間ずつの交代勤務

注7. 早出、遅出等の時間差勤務体制をとっていること

【以下の設問3）～7）は、2）で「02. 当直」あるいは「03. オンコール」に回答した施設のみお答えください。】

		常 勤	非常勤
3) 当直、オンコールを担当する薬剤師数		() 人	() 人
		平成 30 年 6 月	令和元年 6 月
4) 1 人あたりの当直・オンコール担当平均回数 ^{注8}		() 回	() 回
5) 上記 4) のうち、土曜・日曜の平均回数		() 回	() 回

6) 当直・オンコール時の業務内容について ※あてはまる番号すべてに○

01. 入院患者に対する内用薬・外用薬調剤
02. 入院患者に対する注射薬調剤
03. 外来患者に対する内用薬・外用薬調剤・交付業務
04. 外来患者に対する注射薬調剤
05. 入院患者に対する無菌製剤処理業務
06. 外来患者に対する無菌製剤処理業務
07. 薬品管理業務（発注、在庫管理、マスタ管理等）
08. 病棟薬剤業務
09. その他（具体的に

注8. 土曜日・日曜日の日直はそれぞれ 1 回として数える

	平成 30 年 6 月	令和元年 6 月
7) 当直・オンコール 1 回当たり処方箋平均枚数	() 枚/回	() 枚/回
8) 上記 7) のうち、土曜・日曜の平均枚数	() 枚/回	() 枚/回

④ 貴施設における、平成 30 年 6 月及び令和元年 6 月 1 か月間における処方箋枚数についてご記入ください。		
	平成 30 年 6 月	令和元年 6 月
1) 外来患者の院外処方箋	() 枚	() 枚
2) 外来患者の院内処方箋	() 枚	() 枚
3) 入院患者の処方箋	() 枚	() 枚

⑤ 貴施設における 1) 病棟数、2) 薬剤師が配置されている病棟数についてご記入ください。 ※病棟薬剤業務実施加算を算定していない場合もすべて含めて記入してください。		
	平成 30 年 6 月	令和元年 6 月
1) 貴施設における全病棟数	() 病棟	() 病棟
2) 上記 1) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	() 病棟	() 病棟
3) 療養病棟・精神病棟の病棟数	() 病棟	() 病棟
4) 上記 3) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	() 病棟	() 病棟
5) 集中治療室等 ^{注9} の病棟数	() 病棟	() 病棟
6) 上記 5) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	() 病棟	() 病棟

注9. 救命救急入院料、特定集中治療室管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、又は総合周産期特定集中治療室管理料のいずれかを算定している病棟

⑥ 各病棟に配置されている薬剤師数を常勤、非常勤別にご記入ください。					
		平成 30 年 6 月		令和元年 6 月	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤
			実人数 常勤換算人数		実人数 常勤換算人数
1) 各病棟に配置されている薬剤師数		() 人	() 人 () 人	() 人	() 人 () 人
2) 上記 1) のうち、病棟専任の薬剤師数		() 人	() 人 () 人	() 人	() 人 () 人
3) 上記 2) のうち、療養病棟・精神病棟に配置されている薬剤師数		() 人	() 人 () 人	() 人	() 人 () 人
4) 上記 2) のうち、集中治療室等 ^{注9} に配置されている薬剤師数		() 人	() 人 () 人	() 人	() 人 () 人

2. 薬剤師の病棟業務等についてお伺いします。

① 貴施設では、病棟薬剤業務実施加算の施設基準の届出をしていますか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 病棟薬剤業務実施加算 1 (⇒③へ)
 02. 病棟薬剤業務実施加算 2 (⇒③へ)
 03. いずれも届出していない (⇒②-1 へ)

【②-1～②-2 は、上記①で「03.いずれも届出していない」と回答した施設の方のみご回答ください。】

②-1 薬剤師の業務について、1 年前と比較してどのように変わりましたか。 ※○はそれぞれ 1 つずつ

	とても 増えた	増 えた	変 化 は な い	減 っ た	とても 減 っ た
1) 薬剤師による入院時における持参薬の確認	1	2	3	4	5
2) 薬剤師から医師への情報提供	1	2	3	4	5
3) 薬剤師の病棟内のカンファレンス・回診への参加回数	1	2	3	4	5
4) 医師から薬剤師への相談回数	1	2	3	4	5
5) 看護職員から薬剤師への相談回数	1	2	3	4	5
6) 薬剤師による処方提案の件数	1	2	3	4	5
7) 薬剤師による臨床検査（肝・腎機能、電解質・血中薬物濃度モニタリングなど）の提案の件数	1	2	3	4	5
8) 薬剤師の関与による副作用・相互作用等回避の件数	1	2	3	4	5
9) 薬剤師の関与による副作用報告の件数	1	2	3	4	5
10) 薬剤総合評価調整加算の件数（算定できない病棟の場合は同様の業務の実施回数）	1	2	3	4	5
11) 退院時薬剤情報管理指導料の件数	1	2	3	4	5
12) 医薬品情報室での情報収集・管理	1	2	3	4	5

②-2 病棟薬剤業務実施加算の施設基準の届出をしていないのはなぜですか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 算定対象病棟がないため
 02. 薬剤師の人数が不足しているため
 03. 病棟以外（調剤・製剤、外来化学療法、手術室など）の業務負担が大きい
 04. 病棟専任薬剤師による病棟業務の実施時間が週 20 時間に満たないため
 05. 薬剤管理指導以外の病棟薬剤業務のニーズが少ないため
 06. その他（具体的に

【③は、本頁の①で「1.病棟薬剤業務実施加算 1」又は「2.病棟薬剤業務実施加算 2」と回答した施設の方で、平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の期間に届出した施設がご回答ください。】

③ 届出を行うためにどのような対応を行いましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 特に何もしていない
 02. 常勤薬剤師を増員した
 03. 非常勤薬剤師を増員した
 04. 薬剤部門の事務補助者を増員した
 05. 薬剤部門の人員配置・勤務体制の見直しを行った
 06. 医師との業務分担を見直した
 07. 看護職員との業務分担を見直した
 08. IT やシステム等（業務日誌や入力テンプレート等）の活用や環境整備を行った
 09. その他（具体的に

【④は、全ての施設がご回答ください。】

④ 病棟薬剤業務の実施はどのような点で重要だと思いますか。具体的にご記入ください。

【⑤-1～⑤-5 は、入院時支援加算の施設基準の届出をしている施設のみご回答ください。】

⑤-1 貴施設では令和元年6月中に入院時支援加算を算定しましたか。 ※○は1つだけ

01. 算定した (⇒⑤-2 へ)

02. 算定しなかった (⇒⑥-1 へ)

【上記⑤-1で「01. 算定した」と回答した施設のみお答えください。】

⑤-2 入院時支援加算の算定にあたり、薬剤師の関与はありましたか。 ※○は1つだけ

01. あった (⇒⑤-3～⑤-4 へ)

02. なかった (⇒⑥-1 へ)

【上記⑤-2で「01. あった」と回答した施設のみお答えください。】

⑤-3 薬剤師の関与の内容としてあてはまるものをお選びください。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 服薬中の薬剤の確認

02. 入院中に行われる治療・検査の説明

03. その他 (具体的に

)

【上記⑤-2で「01. あった」と回答した施設のみお答えください。】

⑤-4 入院時支援加算の算定に関与した薬剤師としてあてはまるものをお選びください。
※あてはまる番号すべてに○

01. 病棟薬剤業務を担当する薬剤師 (⇒⑥-1 へ)

02. 01 以外の薬剤師 (⇒⑤-5 へ)

【上記⑤-4で「02. 01 以外の薬剤師」と回答した施設のみお答えください。】

⑤-5 入院時支援加算の算定に病棟薬剤業務を担当する薬剤師以外の薬剤師が関与することにより、病棟薬剤業務に変化がありましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 持参薬確認業務が減った

02. 医師へ情報提供をする機会が増えた

03. 医師へ処方提案をする機会が増えた

04. 病棟でのカンファレンスに参加する機会が増えた

05. 病棟での回診に同行する機会が増えた

06. 特に変化なし

07. その他 (具体的に

)

【⑥-1～⑥-3 は、病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟で病棟薬剤業務を実施している施設がご回答ください。】

⑥-1 病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟で算定している入院料（入院基本料、特定入院料等）のうち最も多いものを1つ具体的にご記入ください。
（例：小児入院医療管理料、回復期リハビリテーション病棟入院料、地域包括ケア病棟入院料 等）

⑥-2 病棟薬剤業務を実施することでどのような効果がありましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 01. 患者の薬に関する知識とアドヒアランスが向上した | 02. 医師の業務負担が軽減した |
| 03. 看護職員の業務負担が軽減した | 04. 薬剤関連のインシデントが減少した |
| 05. 薬物治療の質が向上した | 06. 患者のQOLが向上した |
| 07. 薬剤種類数が減少した | |
| 08. その他（具体的に | ） |

⑥-3 これらの病棟でも病棟薬剤業務を積極的に実施すべきだと思いますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 01. 全ての患者で実施すべき | 02. 患者ごとに必要な業務を実施すべき |
| 03. 医師等から依頼があれば実施すべき | 04. 実施すべきだとは思わない |
| 05. その他（具体的に | ） |

【⑦は、全ての施設がご回答ください。】

⑦-1 どのような取組が病院で行われれば、薬剤師の負担を軽減できると思いますか。具体的にご記入ください。

⑦-2 病院薬剤師がどのような業務を分担すれば、病院全体の働き方改革に貢献できると思いますか。具体的にご記入ください。

薬剤部責任者票の質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。
令和元年8月16日（金）までに返信用封筒（切手不要）に封入のうえ、ご投函ください。